

書籍『図説 %Z法と対称座標法の入門』の正誤表（初版 **第2刷**）

題記の書籍をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。その書籍の中で、下表に示す箇所に誤記がありましたので、お詫びして訂正します。
 なお、下表の「訂正箇所」の欄に赤色で示した事項が、今回の追加訂正分です。 著者；柴崎 誠著者

| 訂正箇所 | 誤っている表記 | 正しい表記 |
|-------------------------------------|--|--|
| P152 の 6 行目 | ・・・電源電圧値の E_{SA} , E_{SA} , E_{SA} を・・・ | ・・・電源電圧値の E_{SA} , E_{SB} , E_{SC} を・・・ |
| P161 の(11・17)式 | $\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left(1 - \frac{-\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2} \right) \dot{E}_{SA}$ | $\dot{V}_1 = \dot{E}_{SA} - \dot{Z}_1 \cdot \dot{I}_1 = \left(1 - \frac{\dot{Z}_1}{\dot{Z}_0 + \dot{Z}_1 + \dot{Z}_2} \right) \dot{E}_{SA}$ |
| P179 の(15・30)式 | $\doteq 1.0784 \text{ [pu]} \angle 0 [^\circ]$ | $= 1.0784 \text{ [pu]} \angle -3.55 [^\circ]$ (E_{SA} とほぼ同位相) |
| P192 の例題 6 の「解法と解説」の中の(1)式から 2 行上から | (説明；次の二重線を施した 3 か所の「3」が余分であるため、3 か所とも「3」を削除して修正する。 ・・・ 題意の未補償分の 11 869[kV・A/相]の値から 3 % \dot{Z}_C [%] の値、及び、零相分% Z_0 [%]の値を、3% R_N [%]と 3 % \dot{Z}_C [%] の並列合成値で求めます。 $\del{3}\% \dot{Z}_C [\%] = -j \frac{10\,000 \text{ [kV} \cdot \text{A]}}{3 \text{ [相]} \times 11\,869 \text{ [kV} \cdot \text{A/相]}} \times 100 [\%] = -j 28.08 [\%] \quad (1)$ | |
| P234 の図 2 の中 | 図 2 の E_A と E_{SA} が逆に記載してある。 | 図 2 の E_A と E_{SA} を入れ替えて修正する。 |
| P253 の(26・1)式 | $+j5 \times (X_{G2} + X_T) \doteq \frac{1}{-j5 \times 2 \omega C_1} \quad (26-1)$ | $ 5 \times (X_{G2} + X_T) \doteq \left \frac{1}{5 \times 2 \omega C_1} \right \quad (26-1)$ |
| P270 の 6.項の(1)項 | (1) <u>微地絡</u> ____を生じた・・・ | (1) <u>50% 地絡故障</u> を生じた・・・ |
| P282 の図 30・10 の中のアーク表示 | (誤記内容の説明) 図 30・10 の中の上相の A 相、中相の B 相、下相の C 相の <u>3 相分の全ての碍子表面にて閃絡状態を表すアークを描いてある。</u> | (修正方法の説明) 図 30・10 の中の <u>中相と下相の碍子表面の</u> アークを消去して、上相の碍子表面の <u>アークのみを残し、A 相にて 1 線地絡故障を生じている状態に修正する。</u> |
| P286 の図 30・14 の中 | 点線を基準に実線が「 <u>28.1° 遅れ</u> 」と記してある。 | 「 <u>32.0° 遅れ</u> 」に修正する。 |
| 以下余白 | | |

以上